



当社は、HS財団の動物実験第三者認証施設です

病態モデル動物を用いた副作用確認試験

弊社では、薬効薬理試験で確立してきた“病態モデル”を用いて、“ヒト”の病態時における「くすり」の副作用および相互作用を予測します。



病態モデルと評価例

病態モデル例

- ① 肺線維症モデル
- ② 腎障害モデル
- ③ 高脂血症モデル
- ④ 高血圧モデル
- ⑤ 糖尿病モデル
- ⑥ 心筋梗塞モデル
- ⑦ 脳虚血モデル
- ⑧ 遺伝子改変モデル



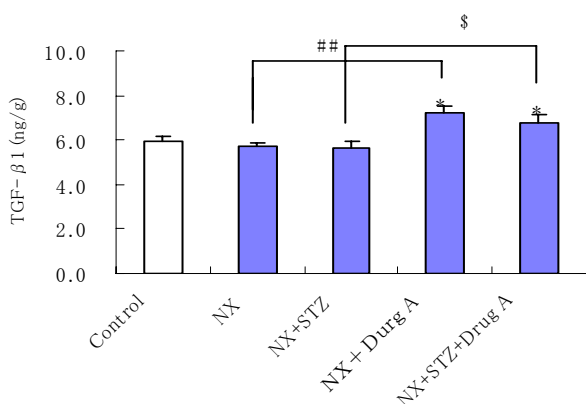
目的の評価に適したレベルで、且つ安定した病態モデルを使用。

評価例

- ① 「くすり」による病態の悪化を評価
- ② 正常な動物では認められていない、「くすり」による副作用の評価

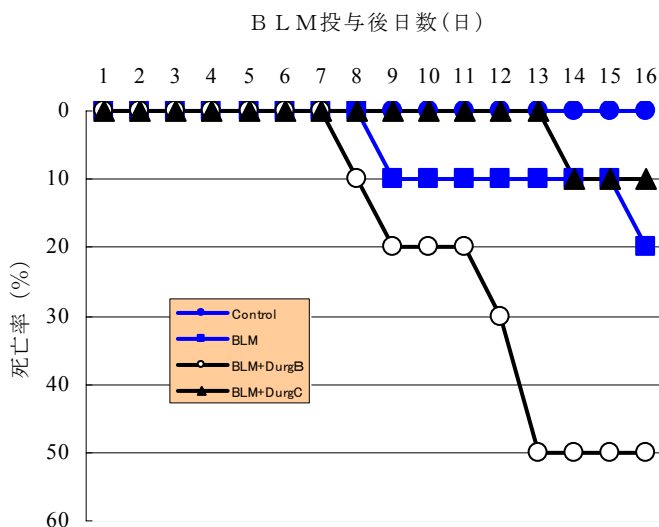


例① 片腎摘出ラットのSTZ誘発糖尿病腎症モデルに対する化合物Aの影響



化合物Aが線維化のマーカーである腎臓中のTGF-β1含量を増加させ、腎障害を増悪させる。

例② マウスのブレオマイシン肺線維症モデルに対する死亡率への影響



化合物Bが肺線維症を増悪させ、死亡率を増加させる。

裏面もご覧ください。

第38回日本トキシコロジー学会学術年会 企業展示およびポスター発表のお知らせ

日時：2011年7月11日(月)～7月13日(水)
場所：パシフィコ横浜 会議センター(<http://www.pacifico.co.jp>)
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1



① 企業展示に出展いたします。是非お立ち寄りください。

＜主な展示内容＞

－ NBRは独自の安全性試験を提案します －

- ・ ミニブタ施設と試験実施の紹介
- ・ マウスの生殖発生毒性試験の紹介
- ・ 病態モデル動物を用いた『副作用確認試験』の紹介
- ・ 医療機器領域の特殊な試験の紹介



② 2011年7月12日(火)にポスター発表します。

演者：山田恭史

演題名：ミニブタを用いた特殊毒性試験

－皮膚感作性試験、光毒性試験、皮膚光感作性試験－

演者：長瀬孝彦

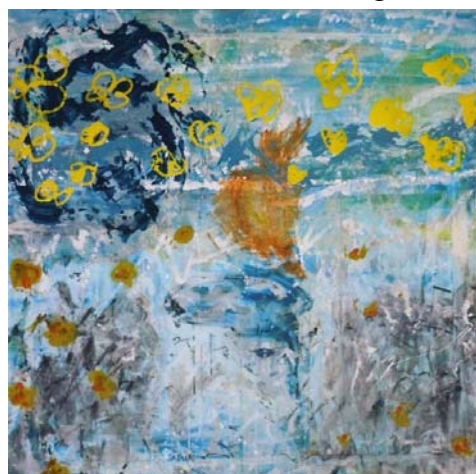
演題名：ミニブタを用いた外用剤の皮膚刺激性試験(その7)

－Gottingen系ミニブタを用いた追加検討－

佐部利 典彦のアートギャラリー(45)

岐阜県出身(1969～)

タイトル: between heaven and ground



作者の言葉

飛行機からみた陸と空と、異国の地での生活の中で再認したことを題材に描きました。最近絵具を垂らしていたのですが、垂らすのがとても嫌になり、また、絵に厚みが欲しくなり、ぶどう畑の泥を、絵具に混ぜて描きました。

『心の絆 - その45 -』



鮮やかな若葉を愛でながら通勤する季節を迎えています。次々と色鮮やかな花が咲く初春は、とても綺麗なものですが、その後、新緑で覆われる様相にも生物としての勢いを感じ、花とはまた違った想いを抱かされるものです。こんな新緑の季節に早くも褐色の畑がポツポツと目につきます。当社の駐車場の前の畑も既に草が枯れています。よく見れば、水不足の所為でなく、農薬が撒かれた後の姿なのです。草が生い茂る前に散布されるのでしょうか。この畑は5年ほど前までは老夫婦が早朝から丹精を込めて手入れをされ、今ごろならナス、キュウリ、ピーマンなど夏野菜の苗が畑一面に植わっていました。それが、高齢化とともに畑の面倒が見られなくなり、故郷を離れて暮らされている息子さんが、休日に戻り、農薬を撒かれているとのことでした。昨今、よく話題になる過疎地の限界集落の閾値までは進んでいませんが、流れは同じです。今、日本では先祖代々、大事に守られてきた田畑が荒廃していています。お金を出せば、野菜も米も手に入ります。でも、なにか、私たちは、そのような解釈で片付けられない大切なものを忘れていました。日々の生活の中で、私たちが真に求めているものは何でしょうか？ 答えはその中に隠されているように思います。